

The background features several decorative elements: a large green circle at the top left, a smaller green circle at the top right, and a large green circle at the bottom center. A series of green wavy lines flow across the middle of the page. There are also several smaller green circles of various sizes scattered throughout the design.

「健口美[®]」レポート
2020
令和2年度活動報告書

ご挨拶



公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所

理事長 濱 逸夫

私どもの口腔保健普及活動は、口腔衛生への関心を高めることを目的に1913年に開催した「ライオン講演会」を原点としています。また、1921年には日本で最初となる児童専門の歯科医院「ライオン児童歯科院」を開設しました。この2つの活動が当財団の前身となっています。2010年10月からは「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」となり、口腔保健の普及啓発を図り、心身の健康と福祉に寄与することを目指し、さまざまな活動を展開しております。

2019年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2019」には、口腔の健康が全身の健康にもつながるという認識のもと、生涯を通じた歯科健診、歯科医師・歯科衛生士による口腔健康管理などの歯科口腔保健の充実、入院患者等への口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組むことが

明記されています。このように、歯や口の健康は、生活の中で大切な機能を担っており、その重要性はますます増してきています。

昨年からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により、マスクの着用や手洗いの習慣化が進みました。そしてこれからも「新しい生活様式」へのシフトが拡大していきます。

このような環境の中で、ライオン歯科衛生研究所では、人々が健康で幸せな毎日を過ごし、満ち足りた人生を送れるよう口腔保健に関するさまざまな事業に取り組んでまいります。

この度、当財団の活動をより多くの方々に知っていただくことを目的に年次報告書「健口美」レポート2020を作成いたしました。ご覧いただければ幸甚に存じます。

今後とも、当財団へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

「健口美」に込めた想い



（公財）ライオン歯科衛生研究所では、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、「健康な心と身体はお口から！「健口美」」のコンセプトのもと、生活者の生活の質（QOL）の向上につながるよう支援を行っています。

Oral Health（口腔の健康）、Oral Beauty（口腔の美しさ）、Communication（コミュニケーション）の三つの要素が機能し、かつ調和していることからもたらされるもの、それが「健口美」です。三つの要素を保持・増進することで、口腔だけでなく身体の健康および心の健康、その結果として生活の質（QOL）の向上に繋がると私たちは考えます。「健口美」には健康なお口の「健」、良好なコミュニケーションを行う「口」、美しいお口の「美」という意味が込められています。

財団の概要

「お口の健康」を通じて、生活の質の向上に努めます

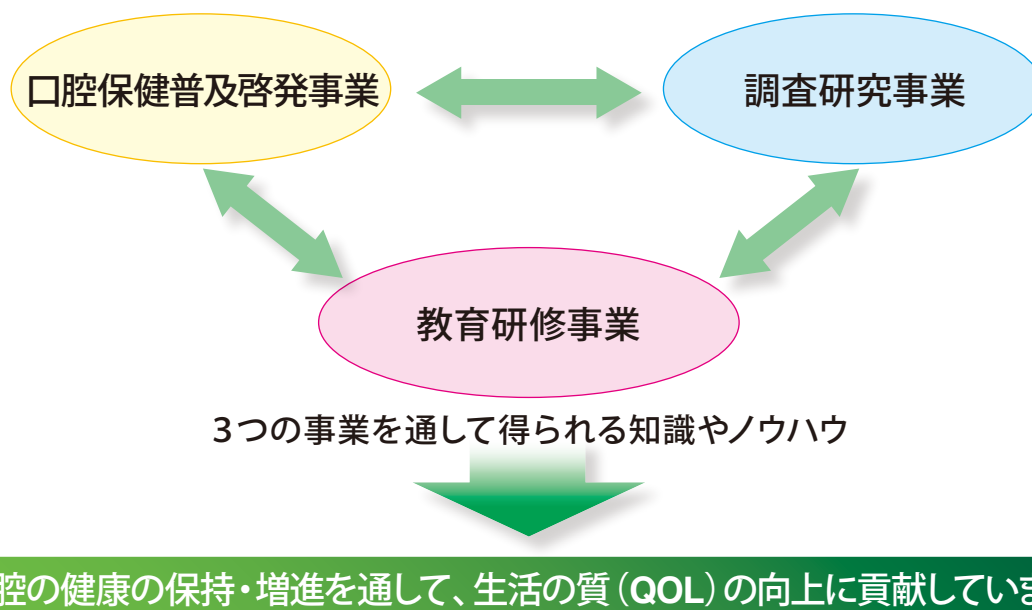
ライオンは「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業以来の一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。当財団はその前身としての「ライオン児童歯科院」を1921年に開設、その後1964年に財団法人ライオン歯科衛生研究所として発足、2010年には公益財団法人ライオン歯科衛生研究所として「口腔保健普及啓発事業」、「調査研究事業」、「教育研修事業」の3つの事業を推進しています。

財団の3つの公益事業

- 1 口腔保健普及啓発事業** ▶ 乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージにおける口腔保健のテーマに応じた普及啓発を推進しています。
- 2 調査研究事業** ▶ 口腔保健普及啓発事業や予防歯科研究活動を通して得られた研究成果を専門家や生活者に情報発信しています。
- 3 教育研修事業** ▶ 保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を実施しています。

当財団では、これら3つの事業を通して、生活者の口腔の健康を保持・増進し、生活の質の向上に貢献できるよう努力を続けています。

(公財)ライオン歯科衛生研究所の活動



社会問題に対する研究活動の取り組み ～口腔機能に関する研究～

口腔機能低下症に関する研究活動の推進 ～環境因子が唾液分泌量に及ぼす影響に関する研究～

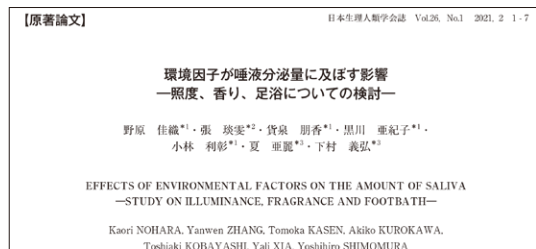
当財団では、口腔機能低下症の診断項目の一つである口腔乾燥に関する研究を推進しています。口腔乾燥は、口の中の異常な乾燥状態、あるいは乾燥感を伴った自覚症状を指すもので、主に唾液の不足によって、口の中の細菌の増加やむし歯の増加、さらには食物の飲み込みが困難になるなどの問題を引き起こします。近年、超高齢社会の到来や社会生活におけるストレスの増大などにより、口腔乾燥の患者が増加していくと予測されているため、口腔乾燥の予防や改善方法を確立することが求められています。

我々は、唾液分泌が自律神経によって調整されていることに着目し、口腔乾燥を改善させる新たな方法として、環境因子による刺激を生体に与える方法が有効ではないかと考えました。そこで、千葉大学工学部と共同で、自律神経に影響を及ぼすと考えられる照明、香り、足浴による刺激が唾液分泌量に及ぼす影響について明らかにすることを目的に研究を行いました。

本研究では、健康成人10名を対象に、実験室の照明を低照度(228ルクス)または高照度(2039ルクス)に設定した環境下で、パイナップルの香り刺激または足浴刺激、パイナップルの香りと足浴の同時刺激を与えたときの唾液分泌量の変化について検討しました。

その結果、低照度環境下でパイナップルの香り刺激を与えたとき、刺激前と比べて刺激後の唾液分泌量の有意な増加が認められ、この環境は口腔乾燥症状の改善に有効であると考えられました。唾液分泌量の増加により、口腔乾燥症状の改善や、咀嚼や嚥下の円滑化に繋がるため、今後より詳細な検討をしていきたいと考えています。

本研究に関する論文が、日本生理人類学会誌26巻1号に掲載されました。また、研究の一部は日本生理人類学会第81回大会(2020年10月WEB開催)で報告しました。今後も調査研究活動を継続し、口腔機能低下症の改善・予防に繋がる研究を推進していきます。



< 論文 >
環境因子が唾液分泌量に及ぼす影響 -照度、香り、足浴についての検討-
野原佳織、張琰雯、貨泉朋香、黒川亜紀子、小林利彰、夏亜麗、下村義弘
論文は以下のリンクから閲覧できます。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpa/26/1/26_1/_article/-char/ja

口腔機能発達不全症に関する研究活動の推進 ～小児の口腔機能に関する研究～

近年、子どものむし歯が減少する中で、「食べこぼす」、「食べ物を上手く飲み込めない」といった口の機能に問題がある子どもが増加していると言われており、早い段階からの口の機能の育成が重要であることが伺えます。しかしながら、その実態については不明点が多く残されているのが現状です。

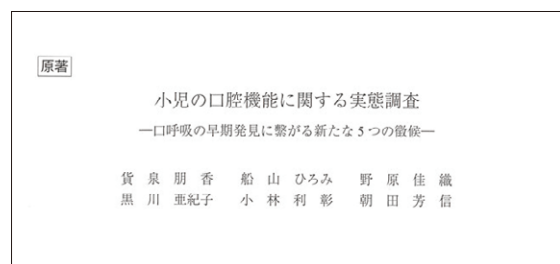
そこで、我々は小児の口の機能に関わる実態を把握し、日常生活から容易に判断できる口呼吸の客観的な指標づくりを目的に、横浜市内の保育園1か所と幼稚園1か所の3～6歳児の保護者355名を対象に質問紙調査を実施しました。

その結果、口呼吸の早期発見に繋がる以下の5つの徴候が明らかになりました。

- ① 鼻の孔によく手を触れる。
- ② 話しかけると聞き返すことがよくある。
- ③ 口がよく乾く。
- ④ 唇にしまりがない。
- ⑤ 食べ物を食べこぼす。

これら5つの徴候を保護者や幼稚園教諭、保育士の方に周知することで、口呼吸の早期発見・対応に繋がると考えられます。

本研究に関する論文が小児歯科学雑誌58巻3号に掲載されました。今後も調査研究を継続し、口腔機能発達不全症の改善・予防に繋がる方法の確立を目指していきます。



< 論文 >
小児の口腔機能に関する実態調査 -口呼吸の早期発見に繋がる新たな5つの徴候-
貨泉朋香、船山ひろみ、野原佳織、黒川亜紀子、小林利彰、朝田芳信

口腔保健普及啓発活動

第77回全国小学生歯みがき大会

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口の健康意識を育むことを目的に、毎年「歯と口の健康週間（6月1日～10日）」に合わせて開催しています。1932年に第1回大会を開催し、これまでに参加した小学生は、延べ196万人に及びます。

第77回大会は、インターネット配信からDVD方式に変更して4回目の開催となり、全国47都道府県及び海外7か国地域の小学校から総数4,722校約27万人の参加申込みがありました。

当初は2020年6月1日～10日を大会期間としていましたが、新型コロナウイルスの影響により、小学校の臨時休業が発生したため、実施期間を2021年度末まで延長して開催しました。また、DVD教材の映像をインターネット上で配信して各家庭で歯みがき大会の復習や、歯みがき・デンタルフロスの実習ができるようにし、家庭との連携の強化を図りました。

第77回大会は、「歯と自分をみがこう。」をテーマに、明海大学学長安井利一先生の監修の下、高学年の健康課題である「歯肉」を題材としています。歯肉炎の原因や予防方法、自身の歯肉の状態を理解し、その状態にあった歯みがきやデンタルフロスの使い方について学べる内容となっています。歯肉炎の改善を通して、自分自身を律することで生活習慣が確立されることや、その経験が生涯の健康づくりに繋がることを伝えています。また、今回はトップアスリートとして女子卓球、伊藤美誠選手より参加した小学生に向けてメッセージをいただき発信しました。

学校での歯・口の健康づくりは、「生きる力」を育むための大切な題材であり、小学生の時期に健康観の育成・健康行動を確立することが生涯の健康づくりの基礎を培うことに繋がります。

今後も全国小学生歯みがき大会を通して、多くの小学生に歯と口の健康づくりの重要性、継続することの大切さを伝え、学校現場での歯科保健活動を支援してまいります。



全国小学生歯みがき大会に参加しているみなさん



第77回全国小学生歯みがき大会開催の様子

新しい生活様式に対応した歯科保健指導

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、小学校の現場においても日常生活がままならず、あらゆる学びが制限される形となり、歯科保健指導も例外ではありませんでした。このような状況下であっても、歯科保健指導の学びを続けられるよう、新しい生活様式に対応した児童への歯科保健指導の検討を進めてきました。その試みの一つとしてオンラインを活用した遠隔授業を2020年8月に福井県某小学校で行いました。今回は、歯みがきの歴史を通して、日々の歯みがきについて興味関心を持ってもらうことを目的に社会科の授業として展開しました。授業の構成は、当財団発行の書籍「歯みがき100年物語」を基に、「歯みがき」という習慣が、「どこから日本に伝わり、どのように日本の中で広まり定着していったのか」や「歯ブラシなどの道具の進化」について講話しました。

直接対面して指導する場合と違い、児童が画面を視聴している中で、飽きない資料の構成や画面越しの演者のタイミングなど、遠隔指導をする上での指導ポイントについて知見を深めることができました。担当の先生からも、「遠隔という条件下でしたが、オンライン上でも双方向でコミュニケーションを取ることができ、児童の深い学びになった」とのご意見をいただきました。

新しい生活様式への対応だけでなく歯科保健指導の形式も多様化していくことが考えられます。これから進展する教育のICT(Information and Communication Technology(情報通信技術))化にも対応できるように歯科保健指導を進化させていきたいと考えています。

今後、今回の授業内容をブラッシュアップし、全国の小学校の先生方にも活用してもらえよう、当財団の運営サイト「小学生歯みがき研究サイト『歯みがきKids』」に教材として提供できるよう整備していく予定です。



遠隔授業と配信の様子

口腔保健普及啓発活動

園児向け媒体の制作を実施

母子歯科保健活動は、乳幼児のむし歯予防には保護者のむし歯予防への理解と関心を深めることが大切であるとの考えから、1959年より始まりました。現在は、保育教諭などの指導者に向けて、健康教育の際に活用できる教材提供や情報発信などの支援を行っています。

2020年度は、保育所・幼稚園等の現場で指導者が歯科保健指導時に活用できる媒体を制作しました。指導内容は、文部科学省『「生きる力」を育む学校での歯・口の健康づくり』（令和元年度改訂版）の指導要領に基づいて構成し、園児向けには、生活習慣の異なった双子の子どもを題材にした歯みがきの大切さを楽しく理解できる紙芝居や、歯のみがき方、おやつのはり方について楽しく学べる媒体を制作しました。また、保護者向けには、仕上げみがきのポイントや、フッ素（フッ化物）の効果的な使い方、歯科の定期健診の必要性等の情報について、園での掲示物や配布物に活用できる資料を制作しました。これらの教材を指導者の方が使いやすいよう、各指導のポイントを記載した「サポートブック」とともに現場へ提供したいと考えています。

今後乳幼児とその保護者に歯と口の健康の大切さを伝えるために、指導者がより実施しやすい内容となるよう改良を重ね、普及啓発を行ってまいります。



紙芝居「まるとさぼるくん」

ホームページ「ママ、あのね。」を通じた取り組み

当財団では、妊婦と乳幼児の保護者を対象に、育児や歯と口の健康に関する情報発信サイト「ママ、あのね。」を2018年6月から公開しています。当サイトでは、産婦人科医、小児科医、小児歯科医、マタニティー歯科、小児栄養学の専門家の監修の下、妊娠中から乳幼児期にかけての育児・歯科・食・病気等の情報を月齢別に分かりやすく掲載しています。「ママ、あのね。」で発信する情報のニーズは高く、当財団の情報サイトの大きな柱に成長しています。

2020年度は「妊娠性歯周炎」、「妊娠中に注意したい食べ物」、「妊婦さんが気を付けたい感染症」、「歯並び」等、妊娠期や乳幼児期の保護者が抱える悩みや関心のある内容、知っておいてもらいたい情報を分かりやすく発信しました。特に、「一コマ漫画」を新たに追加して、発信情報のテーマ内容が一目で理解できるように工夫しました。

今後も多くの妊婦や乳幼児の保護者に歯と口の健康の大切さを伝えるために、信頼性の高い情報の発信と拡充を図るとともに、より多くの人にサイト「ママ、あのね。」を知ってもらえるようにしていきたいと考えています。



育児と乳歯の健康サイト「ママ、あのね。」

「Kid's歯ッカソン」の普及啓発

「Kid's歯ッカソン」は、新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点を取り入れた新しい健康教育プログラムです。

「歯みがき」や「歯と口の健康」をテーマに、小学生が自ら課題を発見し、解決策となるアイデアを考え、発表する過程を通して歯と口の健康についてはもとより、それ以外のことについても自発的に考え、解決策を考える姿勢が身に付くことを目的としています。

2020年度は全国で5校の小学校がこのプログラムに参加しました。児童を対象にしたアンケート結果から、「昼食後3分以上みがく児童」が増加し、行動変容に結びついたことがわかりました。教諭を対象にしたアンケートでは「提供教材で児童が自ら考え、動く時間が大変スムーズに実現できた」、「大変取り組みやすく楽しめ、波及効果も期待できそう」などの意見がありました。

今後はさらに、総合学習での実施を見据えた資質・能力を意識したプログラムの構成や評価の観点も加えたいと考えています。

児童が「歯と口の健康」に興味関心を深め、より指導者が実施しやすいプログラムとなるよう改良を重ねながら、学校現場における保健指導の支援を行ってまいります。



課題解決のアイデアを考える児童の様子

企業従業員の「働きがい」を支援するための取り組み

当財団ではライオン株式会社、ライオン健康保険組合と共に、「社員一人ひとりの健康」を働きがい改革の基盤と位置づけ、従業員自らが予防歯科を実践できるよう支援しています。毎年、全従業員を対象に定期健康診断とあわせて歯科健診や歯科保健指導を実施していましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染予防の観点から、歯科健診は行わず、下記の2つの取り組みを実施しました。

1つ目は「歯間清掃用具の使用率向上キャンペーン」です。社員の約60%が参加し、歯間清掃用具の使用方法の動画を視聴した後、3週間継続してデンタルフロスまたは歯間ブラシを使うことにチャレンジしてもらいました。

2つ目は、「むし歯や歯周病などを指摘されても歯科医院への受診行動がとれていない従業員に対する歯科受診行動の定着化」を目的とした施策です。前年度の歯科健診で、むし歯が3本以上または重度の歯周病を所有し、かつ今年度の問診で1年以内の歯科医院未受診と回答した人を対象に、当財団歯科衛生士がリモートでの歯科保健指導を実施しました。対象者の100%が面談に参加し、その後、23.2%の方は歯科医院受診に繋がりました。

今後も継続して予防歯科の実践に対する支援をしてまいります。



リモートでの歯科保健指導の様子

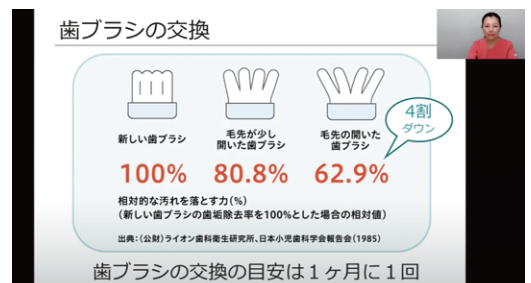
企業向け「オンデマンドセミナー」の取り組み

当財団の成人歯科保健活動（産業歯科保健活動）は、家族の歯と口の健康を守るためには、特に女性を中心に指導を行うことが重要との考えから、1961年に「さくらんぼ運動」の愛称で開始されました。現在は就業者を対象に歯科健診、唾液検査、歯科保健指導、講演会などを実施しています。

2020年度は、新しい生活様式により企業ではテレワークの推進といった環境の変化がありました。このような環境に合わせ、今年度は自分の好きな時間に口腔保健に関するセミナーを視聴できる「オンデマンドセミナー」を開催しました。視聴期間は2週間で、内容はテレワークが進む中、「家庭での間食の取り方や食事の姿勢」、「基本的なブラッシングや歯間清掃用具の使い方」など、2部構成で作成しました。参加希望者が130名のところ1部、2部とも150回以上の視聴があり大変好評でした。

状況に合わせ継続して活動を行うことは、就業者の予防意識を高め、歯科疾患の減少、さらには歯科医療費の抑制などにも繋がっていくことが期待できます。

これからも、歯と口の健康を通じて全身の健康を見据えた予防意識の向上、および健康行動への変容を目指し、より質の高い歯科保健活動を行ってまいります。



オンデマンドセミナーの様子

行動経済学「ナッジ理論」を活用した歯科情報冊子

健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進、行動変容を促す新たな手法として行動経済学（ナッジ理論）の活用が求められています（厚生労働省健康寿命延伸プランより）。

また、従来の教育的情報冊子は、口腔に関心のある人には教科書的で有効ですが、口腔に関心の低い人（無関心層）に対しては、自分事化しづらく行動変容効果があまり期待できないと考えられています。

そこで、口腔の健康に関心の低い人にも情報が届けられるように、ナッジ理論を活用して見せ方や表現を工夫して情報冊子を作成しました。監修には「ためしてガッテン」の元チーフディレクター 北折一先生、青森県立保健大学 竹林正樹先生（行動経済学研究者）にご協力いただきました。

冊子は関心の低い人にも読みやすいように全編マンガ（12ページ）で作成し、成人期での関心の高いテーマ「口臭」を導入の題材として、デンタルフロス、歯周病、歯周病と全身健康、歯科医院への定期受診等の情報を収めました。

来年度には、この情報冊子の有効性の評価、課題抽出を行い、改善を図っていく予定です。



「ナッジ理論」を活用した歯科情報冊子

口腔保健普及啓発活動

特別支援学校での歯科保健活動

当財団では、障がいの有無に関係なくオーラルケアの情報をすべての人へ届けるため、一人ひとりに合わせ、社会的障壁を取り除くために必要な配慮を心掛けた歯と口の健康支援を行っています。

2020年度は、知的障がいに対応する学校(1校)、聴覚障がいに対応する学校(2校)の計44名の児童・生徒を対象に、オンラインによる歯と口の健康教室を開催しました。

オンライン授業の実施にあたっては、当日、子供達をサポートする現場の先生との連携がとても重要になります。そのため、担任や養護教諭など授業に係わる先生方には事前の試写への参加に加え、資料や授業内容の確認など意見交換を行いました。特に、聴覚に障がいを持つ子どもには、手話で授業を行うにあたり、手話表現、手話映像と資料映像の画面構成、手話表現が分かりやすい撮影方法など、工夫が必要となる点が様々ありました。この点については、学校との連携や障がい者支援団体の協力や監修を受けて進めることができました。

今後も、障がいの程度に関係なく、誰にでも分かりやすく情報が伝わるような歯科保健活動に取り組んでまいります。



聴覚障がい児向けの歯科保健指導の配信の様子

卓球強化選手に向けた歯科保健活動

日本卓球協会の小学生から高校生までの強化選手を対象に、生活習慣の一部としてオーラルケアを定着させ主体的な健康行動に繋げることを目的に、歯科講話を計8回、約110名に実施しました。また、2020年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、リモートで講話を行いました。

ジュニアアスリートとして、高いパフォーマンスを発揮するために健康づくりは重要です。その一環として、自身の口腔内の状況を理解し、自分に合った歯みがき方法を身につけることや、自分に合ったオーラルケア製品を選ぶこと、使う場合には「工夫する力」を発揮することの大切さを伝えました。また、毎日のオーラルケアを生活習慣の一つとして「継続する力」の大切さも伝えながら、オーラルケアとスポーツの関係性や重要性について講話を行いました。

小学生期は他律から自律への移行期であり、特にジュニアアスリートは遠征などで親元を離れる機会も多くあります。良好なオーラルケア習慣の定着が規則正しい生活習慣へと繋がることによって、主体的に健康づくりができる力を育ててもらいたいと考えています。

今後も歯科保健活動を通じて歯・口腔の健康にとどまらず全身の健康を見据え、より高いパフォーマンスの発揮や夢の実現に向けて支援してまいります。



オンラインで歯科保健指導を受ける卓球ジュニアアスリート

調査研究活動

東京デンタルクリニック

東京デンタルクリニックは、2020年1月に日本で初めて新型コロナウイルス感染症(以下COVID-19)の発症が確認されて以来、これまでの感染予防対策に加え、患者およびスタッフの安全を確保するためにCOVID-19予防に必要な感染対策を強化し、歯科医療の提供を行ってまいりました。その結果、スタッフ全員の徹底した感染対策により1人の感染者も出さずに診療業務を遂行することができました。

歯科診療所は、1921年(大正10年)に東京・銀座に開設された「ライオン児童歯科院」に始まり、1971年以降、目黒での診療所を経て2014年から五反田駅前に東京デンタルクリニックを開設いたしました。歯科診療所ではこれまで、乳幼児から高齢者、障がい者と様々なライフステージに対する予防歯科診療および地域の歯科医療に携わってまいりましたが、2021年3月をもちまして閉院いたしました。

これからは、これまでの歯科診療所で得た経験を人々が口腔の健康を保つための普及啓発活動に活かしてまいります。これまで診療所を支えていただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



感染対策強化のための指導の様子

学術発表

当財団では、大学や研究機関と連携して口腔保健に関する調査研究を推進し、健康の増進に役立つ最新情報の発信を行っています。
2020年度は、4件の論文、1件の研究報告、4件の学会発表、4件の外部助成を受けた研究活動を行いました。

アンダーライン:財団所員

誌上掲載

1 原著論文

- ① Naoko Nakahodo, Yoshiaki Nomura, Takumi Oshiro, Ryoko Otsuka, Erika Kakuta, Ayako Okada, Yuko Inai, Noriko Takei, Nobuhiro Hanada.: Effect of Mucosal Brushing on the Serum Levels of C-Reactive Protein for Patients Hospitalized with Acute Symptoms. *Medicina* 2020, 56, 549; doi:10.3390/medicina56100549
- ② Ryutarō Jo, Kazuma Yama, Yuto Aita, Kota Tsutsumi, Chikako Ishihara, Masato Maruyama, Kaori Takeda, Eiji Nishinaga, Ken-Ichiro Shibasaki, Seiji Morishima.: Comparison of oral microbiome profiles in 18-month-old infants and their parents *Sci Rep.* 2021 Jan 13;11(1):861. doi: 10.1038/s41598-020-78295-1.
- ③ 貨泉朋香、船山ひろみ、野原佳織、黒川亜紀子、小林利彰、朝田芳信：
小児の口腔機能に関する実態調査 - 口呼吸の早期発見に繋がる新たな5つの徴候 - *小児歯科学雑誌* 58(3):132-141,2020
- ④ 野原佳織、張琰雯、貨泉朋香、黒川亜紀子、小林利彰、夏亜麗、下村義弘：
環境因子が唾液分泌量に及ぼす影響 - 照度、香り、足浴についての検討 - *日本生理人類学会誌*26(1):1-7,2021

2 その他

- ① 市橋透、後藤理絵、春山康夫、武藤孝司、小橋元：
某健康保険組合のビッグデータを活用した口腔内状態と医療費、健康状態、健康行動との関連性に関する長期的な疫学研究 (2002年～2014年) (令和元年度8020研究事業公募課題概要報告) 会誌「8020」No.20. 2021-3. 147-148,2021

学会発表

- ① 野原佳織、張琰雯、貨泉朋香、黒川亜紀子、小林利彰、夏亜麗、下村義弘：
唾液分泌を促進する生活環境の提案 第61回日本人間工学会
- ② 野原佳織、張琰雯、夏亜麗、貨泉朋香、黒川亜紀子、小林利彰、下村義弘：
香りが唾液分泌量に及ぼす影響 第81回日本生理人類学会
- ③ 野原佳織、貨泉朋香、黒川亜紀子、小林利彰、片田治子、根來大幹、駒ヶ嶺友梨子、金澤学、水口俊介：
超高齢社会における口腔機能低下症の予防法の確立 - 口腔乾燥の新たな治療方法の確立に向けた5症例の検討 - 第31回日本老年歯科医学会
- ④ 佐竹茉以、金丸直史、貨泉朋香、小林利彰、安達詩季、唐木隆史、青山友紀、永岡春香、日野亜由美、茂呂歩実、岡部早苗、熊谷千明、中村由美子、山口桃枝、船山ひろみ、朝田芳信：
歯みがきナビゲーションを特長とする新子供用IoT 歯ブラシの清掃力に関する研究 第58回日本小児歯科学会

外部助成活用事業

- ① 川戸貴行、森田十蒼子、尾崎愛美、中井久美子、山本高司、田中秀樹：歯周病が脂肪肝の発症に及ぼす影響の疫学・細胞生物学研究による解明、科学研究費 基盤研究(C) 令和2年～令和4年 日本大学歯学部
- ② 小出雅則、吉成伸夫、宇田川信之、平賀徹、上原俊介、石原裕一：破骨細胞によるスクレロステイン分泌制御を基盤とした新規歯周病治療薬の開発、科学研究費 基盤研究(C) 平成30年～令和2年 松本歯科大学
- ③ 吉成伸夫、尾崎友輝、石原裕一、田口明、宇田川信之：老化制御による歯周病・動脈硬化症関連性への分子基盤の解明 科学研究費 基盤研究(C) 平成30年～令和2年 松本歯科大学
- ④ 石原裕一、小出雅則、吉成伸夫、中本哲自、田口明：血清中IL-1受容体補助タンパク濃度を用いた新規歯周病マーカーの開発 科学研究費 基盤研究(C) 令和元年～令和3年 松本歯科大学、朝日大学

評議員・理事・監事

2021年3月31日現在

評議員

評議員16名

	氏名	役職名	
評議員	荒川 浩久	神奈川歯科大学大学院 特任教授	歯学博士
評議員	糸田 昌隆	大阪歯科大学 医療保健学部 教授	歯学博士
評議員	浦尾 康弘	ライオン株式会社	
評議員	小和田 みどり	ライオン株式会社	
評議員	川口 陽子	東京医科歯科大学 名誉教授	歯学博士
評議員	曾我 晶子	ライオン株式会社	
評議員	川本 強	一般社団法人日本学校歯科医会 会長	歯学博士
評議員	菊谷 武	日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長	博士(歯学)
評議員	佐藤 秀一	日本大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	嶋崎 義浩	愛知学院大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	新開 省二	女子栄養大学 栄養学部 教授	医学博士
評議員	花田 信弘	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
評議員	福田 洋	順天堂大学 大学院医学研究科 特任教授	博士(医学)
評議員	満武 純	ライオン歯科材株式会社 代表取締役社長	
評議員	三宅 達郎	大阪歯科大学 歯学部 教授	歯学博士
評議員	柳沢 幸江	和洋女子大学大学院 総合生活研究科 研究科長	博士(栄養学)

理事

理事13名

役職	氏名	役職名	
代表理事	濱 逸夫	ライオン株式会社 代表取締役 会長 公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 理事長	工学博士
代表理事	山本 高司	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 副理事長	
業務執行理事	池永 和広	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所	
業務執行理事	須崎 優	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所	
理事	朝田 芳信	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
理事	天野 敦雄	大阪大学大学院 歯学研究科 教授	歯学博士
理事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理事	田上 順次	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 教授	歯学博士
理事	西沢 邦浩	日経BP総研メディカルヘルス客員研究員	
理事	野村 正子	日本歯科大学 東京短期大学 准教授	
理事	服部 正巳	愛知学院大学 名誉教授	歯学博士
理事	安井 利一	明海大学 学長	歯学博士
理事	山本 秀樹	公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事	歯学博士

監事

監事3名

役職	氏名	役職名	
監事	上林 博	上林法律事務所 辯護士	
監事	木村 直人	木村直人税理士事務所 税理士	
監事	鎌尾 義明	ライオン株式会社 監査役	

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所のあゆみ

- 1913年 口腔衛生啓発活動開始(写真①)
- 1921年 「ライオン児童歯科院」開設(写真②)
- 1932年 「第1回学童歯磨教練体育大会」(現:全国小学生歯みがき大会)開催(写真③)
- 1952年 口腔衛生普及車「ライオン・ヘルスカー1号」完成(写真④)
- 1958年 母子歯科保健活動(たんぼぼ運動)開始
- 1961年 就業者への歯科保健活動(さくらんぼ運動)開始
- 1964年 「財団法人ライオン歯科衛生研究所」設立
「ライオンファミリー歯科診療所」開設(東京・京王デパート)
- 1965年 学童歯みがき大会をオリンピック競技場(国立競技場)で開催(写真⑤)
- 1984年 台湾の園・小学校で歯科保健活動実施(写真⑥)
- 1992年 ライオン New Year セミナー(現:ライオン健康セミナー)開始
- 1998年 マレーシアでの口腔保健活動実施
- 2004年 設立40周年記念として「歯周病と全身の健康を考える」を発行
- 2005年 視覚障がい者向け歯の健康冊子 「さわってわかる歯みがきの本」監修
- 2007年 ホームページ開設、季刊誌「お口の時間」発行
- 2009年 学童歯みがき大会のインターネット配信をスタート
- 2010年 公益財団法人として内閣府より移行認定
- 2014年 目黒駅前歯科診療所を東京デンタルクリニックとして五反田に移転・開院(2021年3月閉院)
「口腔機能への気づきと支援ーライフステージごとの機能を守り育てるー」を発刊
- 2015年 「健康をみがく笑顔をふやす」シリーズ全4巻発行
- 2016年 LDH国際シンポジウム[健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性]を開催(写真⑦)
- 2017年 「歯みがき100年物語」発行(写真⑧)
全国小学生歯みがき大会のDVD方式での開催をスタート
- 2019年 第28回ライオン健康セミナーを東京、大阪で開催
- 2020年 第77回全国小学生歯みがき大会を開催。約27万人がDVDで参加(写真⑨)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

公益財団法人 **ライオン** 歯科衛生研究所

<https://www.lion-dent-health.or.jp/>

東京本部

〒130-8644
東京都墨田区本所1-3-7
TEL.03-3626-6490
FAX.03-3626-4182

名古屋事業所

〒460-0003
名古屋市中区錦2-3-4
名古屋錦フロントタワー10階
TEL.052-220-6780

大阪事業所

〒541-0057
大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
本町南ガーデンシティ5階
TEL.06-7739-8422